

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第18号】 2013年6月17日発行

【後方支援スタッフ派遣 報告】

第19便 岩手県、宮城県で活動

災害復興支援室が企画・運行する「後方支援スタッフ」派遣（ボランティアバス）第19便が6/6（木）から6/11（火）の日程で岩手県宮古市や大船渡市、宮城県気仙沼市を訪問。学生10名と引率教職員2名、さらに東北学院大学ボランティアステーション・大学間連携企画「復興スタディツアーin宮城県山元町」に参加の学生2名がバスには相乗りし、それぞれが現地で活動を行いました。

■活動レポート

第19便、第一の訪問先は岩手県宮古市。到着した6/7（金）は宮古観光協会による田老での「学ぶ防災」プログラムに参加し、語り部さんから話をお聞きし、田老支所の1階に設置された田老地区の復元模型（5/29（水）に理工学部宗本晋作准教授研究室から寄贈されたもの）を見学しました。6/8（土）は宮古市の末広町商店街にて、商店街の震災後の再開を記念してスタートした「街なか復興市」の運営ボランティアとして「街なか潮干狩り大会」や巨大トランポリン、順番待ちのあいだのシャボン玉体験など、こども向けの企画のお手伝いを行いました。



▲「宮古街なか復興市」での活動の様子

その後メンバーは宮古市から大船渡市に移動し、翌日6/9（日）は現地支援組織のハビタット・フォー・ヒューマニティージャパンと大船渡市社会福祉協議会・復興ボランティアセンターで、津波被害を受けたエリアでの作業に従事しました。それぞれ

活動終了後、気仙沼市に移動し糸井重里氏が取り組む支援プロジェクト「気仙沼のほぼ日」のオフィスに訪問。地元の若手まちづくりグループ「気楽会」の皆さんのお話を聞きました。

6/10（月）は唐桑半島の盛屋水産さんにて、津波による周辺集落の被害について話を聞きし、カキ・ホタテの養殖見学・体験をさせていただきました。



▲気仙沼・盛屋水産での活動の様子

【報告】大船渡市と立命館大学 協定締結1周年記念フォーラム 「復興のたまご」開催

5/16（木）災害復興支援室では、2012年4月に立命館大学と岩手県大船渡市で締結した「災害復興にむけた連携協力に関する協定」の1周年を記念したフォーラムを開催しました。



▲戸田大船渡市長講演の様子

協定とも関わって、立命館ではこれまでに様々な取り組みを行ってきましたが、協定締結から1年を迎えるにあたり、大船渡市長戸田公明氏を衣笠キャンパスにお招き

し、川口清史総長や大船渡市の復興整備計画の策定に携わってきた塩崎賢明教授（政策科学部特別招聘教授）とともに、改めて大船渡市の現状や課題を共有する機会となりました。

またプログラムの後半では、大船渡での活動に関わってきた教職員、学生からの報告や提案を踏まえ、今後の活動の可能性を語り教育・研究機関である大学が担う復興支援の役割について考える機会としました。

会場には約150名が来場し、報告者含め、参加者全員が思いの「たまご」をあたためる機会としました。



▲ゲストによるリレートークの様子

☆参加者の声(アンケートより一部抜粋)☆

- ・震災の被害の報道が少なくなる中で、現地の生の声を聞ける貴重な時間でした。希望を感じる復興計画を知ることができ、被災地の捉え方が変わりました。自分も被災地に行き実際に空気を感じてみたいと思いました。（産業社会学部1回生）
- ・「2年2ヶ月」では言い表せない想いを感じ、復興事業の規模とスピードに胸を打たれる思いでした。仮設住宅生活を余儀なくされている住民の方が2,400軒余りある中で、市民の元気の良さが復興を早めていることを知り、やはり最後は人の力に勝るものはないと勇気づけられました。現地を見て体感することの大切さを、改めて感じました。（職員）
- ・被災した自治体の首長のお話を聴きし、大変刺激を受けました。フォーラムの中で何度も出てきた「復興支援と学び」という言葉は、大学を卒業した私にとっても、大変な重みを感じることが出来ました。（一般）

大船渡市PRキャラクター

おおふなトン



【開催】台湾・淡江大学生との 学生交流フォーラム ～TRACE2013～in 東北

立命館災害復興支援室では2012年3月に韓国・延世大学で、2013年3月には台湾・淡江大学で、復興支援に関わるフォーラムを開催し、東日本大震災からの復興における大学と学生の役割や、復興をどのようなまなざしで見つめ、行動を起こしてきたのかについて、学生が国を越えて意見交換を行ってきました。

そしてこのたび、3月の淡江大学と立命館大学の取り組みをきっかけに、日・台の学生が共に東北の被災地に赴き、災害からの復興について学ぶ学生交流フォーラムを開催します。

- 期間 8/3（土）夜京都発～8/12（月）朝京都市
- 募集人数：立命館大学より約10名 淡江大学参加者：約10名を予定
- 条件
 - ・テーマにつき積極的な議論が可能な学生
 - ・性別、国籍、学部等は問わない
 - ※日本語非母国語話者の場合は日本語検定2級程度の会話レベルを想定。
- 活動内容
 - ・東北でのフィールドワーク（防災教育、復興支援活動、聞き取り活動等）
 - ・フィールドワークを踏まえたクロージングダイアログ
 - ・交流企画等
- 参加メンバー募集 6/19（水）正午まで



▲台湾・淡江大学でのフォーラム開催の様子

これからの主な取り組み

〇6/24（月）～7/7（日）JICA インドネシア防災研修団の受け入れ（国際協力事業課）岩手県遠野市や宮古市、大船渡市、陸前高田市等の被災地を訪問予定。

〇7/31（水）～8/4（日）キャンパスアジア学生の東北スタディツアーの実施

日中韓、3カ国の学生が東北を訪れ、東日本大震災の被害と復興の現状を考える場とし、研修として東北地方でのフィールドワークを実施。

〇8/3（土）～8/12（月）

淡江大学・立命館大学 学生交流フォーラム～TRACE2013～in 東北

＜それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。＞

立命館では東日本大震災発生2011年4月21日に「立命館災害復興支援室」を設置し、被災地域の大学からの支援要請など緊急的・総合的に判断・対応を行なう窓口として活動を開始しました。現在は、学生の支援ボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートを行なうとともに、ひきつづき学内外の情報発信と支援ニーズ・シーズの整理・具体化に関する調整を行なっています。

実施に関する詳細は、災害復興支援室のHPやfacebookでも今後ご紹介して参ります。



▲淡江大学生と立命館大学生 交流の様子

【進捗報告】 2013年度研究推進プログラム（基盤研究・災害研究枠） 募集を実施

2011年・2012年度実施の「東日本大震災に関する研究推進プログラム」の終了に伴い、2013年度では新たに、立命館大学研究推進高度化推進制度において、研究推進プログラム（基盤研究）の中に「災害研究枠」として設定し、申請の募集を行いました。

「立命館の教育・研究を活かした震災からの復興、社会の再建のための支援」の考えの下、息の長い取り組みに繋げていきたいとの思いから、2013年度は研究部が主管で防災・減災・災害時の被害軽減や東日本大震災における被災地の復興支援などのテーマを対象に、多様な研究のサポートを目的としたプログラムを募集、資金面での支援を行います。

募集は6/14（金）を以って締め切っており、申請された調書は今後審査委員会において評価項目に基づいた審査が行われます。採否については、7月上旬頃文書で申請者に通知をする予定です。

【本プログラムでの助成内容】

- 助成採択規模 ①50万円上限 ②100万円上限
- 助成対象期間 2013年8月1日～2014年3月31日

【ご協力・お願い】 寄付継続依頼

災害復興支援基金（復興+R基金）

東日本大震災の発生を受けて、災害復興支援室では、多くの教職員の皆さまの賛同を得て、「立命館復興支援基金（復興+R基金）」を設立し、現在までに教職員のべ458名の個人の皆さまからの給与引き取りによるご寄付に学内諸団体からの寄付もあわせると、2013年4月末時点で約4597万円のご寄付賜りました。基金から学費減免や既存の奨学金制度等でカバーしきれない被災学生の経済支援を「被災学生支援金」として、また学生・生徒・児童によるボランティア活動等への支援として「復興活動支援金」の運営を行ってまいりました。

「被災学生支援金」では、被災した在学生計23名への経済支援を行い、2014年度の卒業・修了予定学生を最後に、支援の目処がたっている状況です。

しかしながら、被災した地域では依然、復興に向けてきわめて多くの課題が残されており、「復興活動支援金」ではこれまでも600名を超える学生・生徒・児童が東北の地で復興支援活動に取り組んできましたが、まだまだ息の長い取り組みが求められています。

災害復興支援室では、あらためて教職員の皆さまへ、特に学生たちが取り組む復興支援活動に対して継続的なご支援を賜りたいと考え、この主旨にご理解とご賛同いただける方の給与引去寄付申込を受け付けています。お申込みは随時受け付けております。何卒ご協力のほど、宜しく願いいたします。

●申込方法 寄付申込書に必要事項をご記入の上、災害復興支援室まで学内便もしくは郵送にてお送り下さい。 ※寄付申込書は以下のページからダウンロードいただけます。

<http://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=94811>

[申込書提出先・問合せ先]

朱雀・総合企画課 担当：桂

TEL：075-813-8130／内線510-2088

編集後記

立命館と協定を結んだ岩手県大船渡市の銀河連邦サンリクオオファナト共和国PRキャラクター「おおふなトン」。先日のフォーラム開催時に知りました。ご存知でしょうか？ちょっとブサカワイイのでぜひ検索してみてください。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第18号】

発行人・編集 立命館災害復興支援室

TEL 075-813-8130（総合企画課内）

メール 311fukko@st.ritsumei.ac.jp

HP <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/>